

## 会議結果概要書

1 会議名	令和7年度第3回名寄市上下水道事業経営審議会
2 開催日時	令和8年2月5日(木) 午後6時29分から午後7時22分まで
3 開催場所	駅前交流プラザ よろーな2階 会議室3
4 委員	山上会長(○)、臼田副会長(○) 和田委員(○)、川瀬委員(×)、栢山委員(○)、櫻庭委員(○)、 吉川委員(○)、久保委員(○)、藤島委員(○)、清水委員(○) ※委員10人中9人出席
5 事務局	東建設水道部長、佐藤上下水道室長(兼建設水道部次長)、有門工務課長、松永浄水場長、大沼下水処理場長、成毛業務課長、坂上業務課主査、中島業務課主査、本間業務課主査、小林業務課主査
6 議題等	協議1 水道事業及び下水道事業経営戦略の改定について
7 会議結果	○協議1 水道事業及び下水事業経営戦略の改定について ・水道事業及び下水道事業経営戦略改定素案についての審議 ○その他 ・上下水道ポータルの利用促進について説明する。 ※主な質疑・意見等については別紙1のとおり

## 令和7年度第3回名寄市上下水道事業経営審議会 主な質疑・意見等

## ○協議1 水道事業及び下水道事業経営戦略の改定について

**問** 1年前に下水道管による八潮市の事故が起きましたが、名寄市における下水道管の維持管理などの整備はどのようになっているのか。

**答** 下水道管の状況ですが、令和7年3月末で約193kmの管路があります。更新する管路の選定方法は、耐用年数にかかわらず、毎年、リスク評価が高い路線から管路調査を行い、その結果をもとに緊急度が高い管路を優先的に更新しています。また、八潮市の事故を受けまして、国から指示された条件のもと管路調査を実施したところ、調査対象の管路が約6.5kmが該当し、全て調査完了しています。なお、調査結果については、国の公表がまだとなっていることから、控えさせていただきます。

**問** 上下水道の管路状況と、管路の更新や施設設備の更新費用は経営にどれくらい影響されているのか教えてほしい。

**答** 水道の配水管の状況ですが、令和7年3月末で約334.9kmの管があり、その内布設して40年以上が経過している管の延長が約113.6kmで、経年化率は32.95%となっています。下水道については、約193kmの管があり、その内布設して50年以上経過している管の延長は11.7kmで、経年化率は6.0%となっている状況です。

更新費用は、毎年4億円程度かかっている、それを維持更新していくための料金として、約2割増の改定が必要と判断し、料金改定を昨年させていただいた経緯があります。今後、収入が減っていくことになりますと、5年に1回は料金水準の見直しの検討は必要と考えています。

**問** 5年の期間で料金水準の見直しをしていたら、遅いのではないか。

**答** 自治体によっては3年で料金水準の見直しを検討しているところがありますが、3年での見直しになると、1年目に検討して、2年目に料金改定するための手続きを行い、3年目に改定していくというスケジュールとなりますので、毎年改定の協議を行うことになってしまいます。その一方で5年での見直しですと、2～3年の経営状況などの様子を見ながら、その後料金水準の検討ができることとなります。そうしたことから5年の期間で料金水準の見直しをさせていただいているところですのでご理解願います。

**問** これまでに水道料金の改定はどれくらいしていて、改定した時の市民の意見はどうだったのか。また、前回の経営戦略の改定時の意見はどういうものがあったのか。

**答** 風連町と名寄市が合併後、平成20年度に料金の統一を行い、その後令和元年度に改定、令和2年度に消費税改正に伴う改定、そして、昨年料金改定をさせていただきました。令和元年度の料金改定では、昨年の料金改定と同様に、水の安心安全を守るためには施設等の老朽化を更新しなければならないが、料金が不足していることから、料金の値上がりは

やむを得ないという意見が多数で、ご理解をいただきながら料金を改定しています。また、令和2年度の経営戦略の改定における意見では、王子マテリアの撤退があって、収入が減少することから経営が厳しくなることで理解するという意見が多かったと思います。

**問** 水道事業で近隣自治体との広域化や共同化の事業は何かできないのか。

**答** 広域化や共同化は、国からの指導もあり色々検討しているところですが、なかなか進んでいない状況です。施設などのハード面に関する広域化・共同化は、逆にコストが高くなることから難しいところです。また、事例としては、上川北部における市町村での水質検査は実施していますが、共同で物を購入するなどソフト面での検討は進めているものの実現はまだ難しいところです。

**問** 水道管の更新の際に配水用ポリエチレン管を採用していると記載があるが、そのコストは高くないのですか。

**答** ポリエチレン管は、従来の管よりもコストが安く、耐震も100年持つと言われている管であります。したがって、経費が削減できるため、水道管を更新する際はこの管を採用して更新しているところです。

**問** 地下水を使って融雪を行っている場合、下水道使用料はかかるのか。

**答** 生活用水として使用していなければ下水道使用料はかかりません。ただし、名寄市では、汚水と雨水を別々の管で処理する分流方式を採用している地区と、汚水と雨水を同じ管で処理する合流方式を採用している地区があります。融雪槽の排水は、分流方式の地区では処理費はかかっておりませんが、合流方式の地区ですと処理費がかかっている状況です。

**意** 今後、安心して安全できる水を供給していくためには、どうしても経費がかかってしまうことを市民に理解を求めていくことが必要だと思う。また、令和8年度に策定する名寄市の第3次総合計画と連動して、より具現性の高い経営戦略が求められると思う。

**意** ウォーターPPPは、国からの指導もあって検討しなければならないが、色んな角度から検討を行い、良い方向になるように進めてほしい。

**意** 今後、給水人口の減少が想定されるため、将来の需要を踏まえた適切な規模での設備更新を図ってほしい。また、経営戦略の素案にある文章として、料金水準の見直しを行う必要がありますという表現がいくつかあるが、「適正な料金水準について改めて検討していく必要があります」と統一した方がよいと思う。